

「第七期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」策定に係る  
市民意見交換会総括表（最終報告）

開催回数： 11 回      参加者数合計： 68 名      参加平均人数： 6.18 人

	日 時			会 場	参加者数
1	7月26日	水	14:00 ~ 16:00	大正農業者トレーニングセンター	3
2	7月27日	木	10:00 ~ 12:00	東コミュニティセンター	4
3	7月28日	金	10:00 ~ 12:00	鉄南コミュニティセンター	4
4			14:00 ~ 16:00	緑西コミュニティセンター	13
5	7月31日	月	10:00 ~ 12:00	南コミュニティセンター	11
6			14:00 ~ 16:00	西帯広コミュニティセンター	6
7	8月2日	水	10:00 ~ 12:00	森の里コミュニティセンター	8
8			14:00 ~ 16:00	川西農業者研修センター	2
9	8月4日	金	10:00 ~ 12:00	啓北コミュニティセンター	7
10			14:00 ~ 16:00	帯広の森コミュニティセンター	7
11	10月5日	木	18:30 ~ 20:30	市役所10階第5会議室B	3
参加者合計					68

【質問・意見の概要】

区 分	件数	主な意見
①高齢者のいきがいづくり	15件	高齢者が活躍・参加できる場や仕組み、環境づくりなど
②健康づくり	12件	健康に対する意識の向上や、健診等の受診率拡大など
③介護予防	13件	男性を参加させる工夫の必要性 介護予防に通うための交通手段確保など
④在宅サービス	13件	老老介護への支援の充実、地域包括支援センターの充実など
⑤施設サービス	8件	施設入所待機の状態、施設整備の充実など
⑥地域で支える仕組みづくり	22件	町内会や民生委員、ボランティアの重要性 高齢者の見守りなど地域の力の必要性など
⑦認知症施策	7件	認知症サポーターの活躍、高齢者の運転など
⑧介護保険制度の動向	13件	介護保険料や介護サービスの負担増 今後の介護保険制度の動向など
⑨高齢者福祉全般その他	11件	計画、意見交換会の開催方法など
計	114件	

「第七期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」策定に係る  
関係団体意見交換会総括表（最終報告）

開催回数： 26 回

参加者数合計： 284名

参加平均人数： 10.9名

	開催日		団体名	会場	参加者数
1	9月13日	水	北海道理学療法士会十勝支部	十勝リハビリテーションセンター	3
2	9月15日	金	ナルクとかち	東福祉センター	4
3	9月20日	水	北海道栄養士会十勝支部	保健福祉センター	7
4			北海道看護協会十勝支部	第一病院	8
5	9月21日	木	北海道作業療法士会十勝支部	十勝リハビリテーションセンター	9
6	9月27日	水	十勝歯科医師会	十勝歯科医師会館	10
7			北海道社会福祉士会十勝地区支部	開西病院	12
8	9月29日	金	北海道民生委員児童委員連盟帯広支部	市役所10階会議室	13
9			帯広市健康づくり推進員の会	保健福祉センター	19
10	10月3日	火	帯広市医師会	保健福祉センター	8
11	10月4日	水	帯広市食生活改善推進員協議会	保健福祉センター	11
12			十勝高齢者グループホーム協議会	市役所10階会議室	7
13			北海道柔道整復師会	保健福祉センター	8
14	10月6日	金	十勝小規模多機能事業者連絡協議会	特養にれの木	10
15	10月10日	火	北海道薬剤師会十勝支部	グランドホテル事務所	9
16	10月11日	水	北海道介護福祉士会十勝支部	コムコの里みどりがおか	5
17			帯広市ヘルパーステーション連絡協議会	市役所10階会議室	14
18	10月12日	木	おんぶの会	グリーンプラザ	6
19			帯広市社会福祉施設連絡協議会	市役所10階会議室	10
20	10月13日	金	帯広ボランティア連絡協議会	グリーンプラザ	15
21	10月16日	月	地域包括支援センター	市役所10階会議室	16
22			帯広市介護支援専門員連絡協議会	グリーンプラザ	9
23	10月19日	木	帯広市社会福祉協議会	保健福祉センター	10
24	10月27日	金	北海道サービスセンター連絡協議会	市役所10階会議室	12
25	10月31日	火	帯広市町内会連合会	市役所10階会議室	16
26	11月21日	火	帯広市老人クラブ連合会	グリーンプラザ	33
参加者合計					284

## 【質問・意見の概要】

区分	件数	主な意見
①高齢者のいきがいづくり	5件	高齢者が活躍できる仕組みづくり、老人クラブの育成など
②健康づくり	10件	食育の推進、健診のPR、健康づくり推進など
③介護予防	52件	介護予防サークルへの支援、介護予防事業の継続的实施、要介護にならないための効果的な介護予防事業の取り組み、参加しやすい工夫など
④在宅サービス	70件	多職種の連携、地域包括支援センターの充実、医療と介護の連携など
⑤施設サービス	22件	介護人材の課題など
⑥地域で支える仕組みづくり	58件	地域の担い手育成、ボランティアが参加しやすい仕組みづくり、地域交流サロンの充実など
⑦認知症施策	15件	認知症サポーターの育成、拡大、スキルアップなど
⑧介護保険制度の動向	14件	介護サービスを支える人材の育成と確保対策、介護保険制度の今後の動向など
⑨高齢者福祉全般その他	11件	事業所支援、障害者支援サービスなど
計	257件	

「第七期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」策定に係る市民意見交換会（最終報告）

【主な意見】		
区 分	件 数	主 な 意 見
①高齢者のいきがづくり関係	15件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流サロンへ行き、体操などしている。・様々なキャリアを持つ高齢者がいる。ボランティアになるようにしてこと。高齢者をもっと利用すべきである。</li> <li>・市役所各部で取り組んでいることを、庁内で連携してすすめることよい。</li> <li>・おでかけサポートバス事業、とても助かっているという住民の声を聞くが、認知症の検査などで自家用車を手放すとなった人、車社会で生活していた人が果たして一人でバスに乗れるのか？元気なうちから「バスの乗り方講座」などを行っても良いのでは。</li> <li>・「まちなか」にたくさん人が来ている。行きたいときにいけるのがよいのではないのか。ほかの地域にもまちなかのような場所ができればよいし、高齢者の取組みにもっと補助があったらよいのではないか。</li> <li>・「まちなか」ではいろいろな活動ができてよく行く。</li> <li>・ここで集まる、という場も地域にたくさんあるとなお良い。知人たちの集まりから新しい人たちを巻き込んでまとまりをつくっていったらよい。</li> </ul>
②健康づくり関係	12件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活は、子どもの頃からの教育が重要であり、大人になってからはなかなか改善できない。学校や家庭での食育が必要である。</li> <li>・健康でいられるためには本人の努力が重要であるが、行政の協力も必要である。健康診断は、普段病院へ行かない人には良い機会である。もっと利用されるべき。</li> <li>・ふれあい銭湯の日について、回数を増やしてほしい。また、浸かるだけでなく、温泉と運動、頭の体操を含めた内容にしてほしい。</li> <li>・健康づくり事業に参加したことがあるが、「運動するように」だけではなく「正しい靴の選び方」についてもレクチャーしていただけるとありがたい(足を痛めた知人がいる)</li> <li>・在宅医療を望む人が増えている。医師の確保や支援はどのようになっているのか。</li> </ul>
③介護予防関係	13件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の場に男性が少ない。引っ張り出す工夫が必要。・男性は、自分の興味のあることを優先している。</li> <li>・高齢者同士で気軽にデイサービスの利用を勧めている現状がある。しかし、実際には元気な高齢者で要介護にはならないだろうということがある。包括などに相談だけでもしてみてもいいものか？</li> <li>・介護認定を受けなければサービスを利用できないことを知らない人が多いので、もっと周知した方がよい。</li> <li>・サークルへの講師派遣は事業で行ってるのは知っているが、まだサークルに参加していない方々への講師派遣はないのか。</li> <li>・高齢者は福祉という感覚の人が多く。自ら取り組むという意識を育てるのは大変である。</li> </ul>
④在宅サービス関係	13件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知らないことがあったときなど、地域包括支援センターにはいろいろ聞いている。</li> <li>・町内の92歳の寝たきりの高齢者が亡くなったが、最後の1年間は娘と仕事を辞めた息子が毎日介護にきていた。</li> <li>・退院して本人の希望もあり自宅に戻ったが、老老介護で夜中30分おきに起こされるのに家族がもう限界…と。その状況をケアマネに伝えられれば良いが「言えない(気をつかう、迷惑かけるから)」。ケアマネからの「ご家族は大丈夫？」というひとこと、声かけをしてほしいと感じた場面があった。</li> <li>・認定受けていてもサービスを使わない人がいる。更新申請時に地域包括支援センターなどの専門職が相談することで、必要のない申請をなくせるのではないのか。</li> <li>・在宅で生活できるうちは、在宅生活を継続したい。サービスの充実を望む。</li> </ul>
⑤施設サービス関係	8件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設入所待機者は、介護が必要な人であるが、入所できるまでの自宅生活が大変だと思う。特に身寄りの無い方は。</li> <li>・施設入所の待機者は今後どうなっていくのか。</li> <li>・老健を利用している間に入院すると退所扱いになり、退院後新たな施設を探さなくてはいけなかった。しかし特養を利用している間は入院しても退所扱いにならなかった。そういった制度の違いをもっと周知してもよいのではないのか？</li> <li>・(特別養護老人ホーム)待機者が減っているのは、基準が厳しくなったからではないか。</li> <li>・施設給付費は横ばい、施設に入れない人が増えているから結果的に在宅のサービスに頼っているのでは。高齢者増えており待機者増えるのが本当ではないか。</li> <li>・施設に入る時、例えば兄弟で入所する必要が出た時、せめて一緒に施設に入れるように配慮はできないものか。</li> </ul>
⑥地域で支える仕組みづくりなど	22件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会、老人会で独居高齢者の見守りを行っている。色々なルールを決めて行っているが、これからどうしていこうか。出前健康講座の開催も役員会で検討したい。</li> <li>・市が地域住民に求めている役割は何かみえてこない。</li> <li>・地域でのつながりを強くする活動を求められているが、未婚の方や子どもの数も減りますますつながりは薄くなっていく社会になると思う。社会情勢なども踏まえた取組が必要なのでは。</li> <li>・ボランティア活動は市民に期待する前に行政がもっと関わらなければならない。ボランティアが重要ならもっと考えて欲しい。</li> <li>・町内会加入も減っている、若い人が入らないことも要因だが高齢者も回覧版をまわすのが大変、役員が負担などでやめていく。災害時も誰がどこにいるのか町内会でわからない。</li> <li>・民生委員のなり手も少ない。包括支援センターよりも民生委員の方が身近である。</li> <li>・顔の見える町内会を皆で作り上げる必要がある。</li> <li>・ひとり暮らしでもいろんな人から声をかけてもらっている。</li> </ul>
⑦認知症施策	7件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーターとなったその後のスキルアップや活動のフォロー必要である。</li> <li>・運転適正がなく、免許を取りあげただけでは駄目である。外へ出なくなり家に引きこもってしまう。代替りの手段が必要である。</li> <li>・帯広は、車移動を中心としたまちとなっている。</li> </ul>
⑧介護保険制度の動向など	13件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険にこんなにお金がかかっているとは知らなかった。</li> <li>・介護保険料は今後どうなるのか。</li> <li>・施設介護の充実についてはどう考えるか。施設整備を充実させるなら保険料は上がっていくし、現状維持であればそれなりの保険料で収まるのかと思う。</li> <li>・市外からの転入者(施設入所)が増えると市民負担が増えるのか。</li> <li>・保険料が高い。</li> <li>・介護療養型医療施設の廃止について何か新しい情報はありますか？</li> <li>・介護サービスの自己負担割合が3割になるが帯広市はどれくらいいるのか。多様なサービスを進めるにあたり、格差が出ないようにしてほしい。</li> <li>・今後介護サービスが足りるのか心配。対策はしているのか。</li> <li>・保険給付、保険料の比較で、保険料の高い市は何か特徴があるのか？</li> </ul>
⑨高齢者福祉他などその他	11件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換会への参加者が少ない、開催を知らなかった、回覧を見たかも知れないがたくさんあると見逃してしまう。</li> <li>・意見交換会の昼間の開催時間では働いている人がこれない。</li> <li>・計画は内容がわかりにくいものが多いため、もっと細かく事業などを載せてほしい。</li> </ul>
合 計	114件	

「第七期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」策定に係る関係団体意見交換会（最終報告）

【主な意見】

区 分	件 数	主 な 意 見
①高齢者のいきがいづくり関係	5件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きがいでだけでは担い手にならない。メリットをもっとPRする。</li> <li>・老人クラブの高齢化も深刻、活動の停滞や参加者の体調面の心配も出てくる。楽しく取り組めるような活動を考えるなど、苦勞が絶えない。</li> </ul>
②健康づくり関係	10件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者になって食事に気をつけるといっても難しい。生活習慣病予防もあるので若い世代にも食の重要性を伝えることが必要。一番は食育の段階から正しく食事をとることを伝えていく必要がある。</li> <li>・健診の案内など高齢者は見てもわからない、見ることすらせず放置する人も多い。わかりやすい案内、商業施設等での告知方法など工夫が必要。</li> <li>・健康づくりの教室など、同じ顔ぶれとならないよう時間帯の工夫も必要。</li> </ul>
③介護予防関係	52件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康寿命の延伸、障害を持って心身ともに健全に過ごせるように地域の中で役割を担っていきたい。</li> <li>・介護予防事業は会場が近くでないといけない。自分で行ける人は少ない。男性の参加が少ない。行っても人数が少なくやめてしまう。</li> <li>・市内のサークルはコミセン、福祉センターの会場費、利用料がかかる。介護予防を考えると週1回の活動が理想だが、金銭的に難しいと思う。介護予防を重点的に考えているのならサークルに補助金を出すなどもっと予算をここに割くべき。</li> <li>・コープ、新しくできた高齢者の施設等、無料で使用できる会場を探して活用している。</li> <li>・お店の定休日に会場を開放してくれるところもある。</li> <li>・何かを始めるときはちょっと関心のあるものから入っていくと広がっていく。</li> <li>・参加する人は意識が高いがそれ以外の人はどうしていくか課題。</li> <li>・情報は広報、どうしんデリバリから得ることが多い。</li> <li>・周知の仕方は重要である。先日防災訓練を実施し多くの人が集まりとてもよかった。そういった場で周知するとよいのでは。</li> </ul>
④在宅サービス関係	70件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護施設や居宅事業所と接することはあるが継続したものではない。各市町村の連携窓口のネットワークをしっかりとって欲しい。</li> <li>・どこにつながったらよいのか（相談したらよいのか）わからない人もいる。高齢者のニーズをどう拾い上げるか、施設内でも個々で話してはいるが、職能や行政とタイアップなどして帯広独自の仕組みをつくっていったらよい。</li> <li>・包括は住民にも浸透してきている印象がある。いろんな課題を複雑に抱えている方が増え、高齢者福祉課だけではなく様々に連携をとらなければどうにもならなくなってきている。</li> <li>・地域包括支援センターのニーズが増えているのなら、制度が始まった当初と同じ区分け（圏域）で間に合っているのか、対応しきれているのか。センターとしての拠点だけではなく、ネットワーク軽く出て行けるようなシステムが必要なのではと感じる。</li> <li>・自分らしく生きると考えたら、在宅で過ごすのは良いと思うが、支えてくれる専門職を実際知らない。家族も自分が家に居られない時が心配。体制が整うならば在宅で、と考える人は増えていくのでは。</li> <li>・医療と介護の連携は、MSWが調整するので、MSWの人員が不足している。</li> <li>・市役所からの郵送物は高齢者には解らないので、封を開けない方も多い。開けても字が小さい、専門用語も多い。誰に聞いたらいいかも解らないので、ヘルパーに問い合わせがくることが多い。第7期計画のアンケートでも結構パニックになっていた。</li> <li>・来年度の報酬改定はどうなるのか、市はどのようにヘルパー事業所を支援してくれるのか。ヘルパー事業所の経営は苦しい。このままでは生き残れない。支援してくれないと、今後、利用者が増えていった時に大変なことになる。</li> <li>・このままヘルパーの高齢化が進むと、事業所をたまたまなくてはならなくなる状況になる。そして働く場所もない、賃金も安い。ヘルパーの年齢層を低くしないと事業所自体もなりたたなくなる。</li> <li>・ハローワークには、介護職員のコーナーがあり、求人を出していない法人はないくらい。そのような状況に施設ができて、人材が取られていく。若い人を育てたくても人が来ない。来る人は65歳以上の人になってしまう。でもヘルパーの仕事は専門職なので大変な仕事。要介護のすべてを把握しなければならないので簡単な仕事ではない。また、高齢の方はフルタイムではなく、少しのパートを希望している。市の方で、ヘルパー事業所を守ることをしてほしい。財政は厳しいと思うが助けてほしい。</li> <li>・地域包括ケアセンターと柔道整復師会との間ですり合わせが必要。どのような人が繋ぐ対象となるのか、地域包括支援センターはふれあいサービスをどのように捉えているのかなど、組織としてのマッチングをする機会をセッティングしてほしい。</li> </ul>

「第七期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」策定に係る関係団体意見交換会（最終報告）

【主な意見】

区分	件数	主な意見
⑤施設サービス関係	22件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材確保は喫緊の課題であり、社福法人では、いろいろな取り組みをしていくが、行政からも、取り組みのアイデアを提供してほしいし、日頃の意見交換も必要だと思う。社福法人も制度改正によっていろいろな取り組みをしていかななくてはならない時代になってきている。</li> <li>・市や各事業者や法人がバラバラに取組みをしていくのではなく、定期的に顔を突き合わせて役割分担をしながらやっていく機会を設けるべき。市は情報の発信や広報の発信など、たくさんお金をかけなくてもできること、市がやっているならということでの場を繋ぐということをやっていただきながら、教育機関とか事業者とかをくっつけていくような取り組みをしてほしい。</li> <li>・施設整備と人材確保は両輪。市が整備する施設に対して必要な介護職員数についても計画にのせるべき。</li> <li>・必要な介護職員数に対して、潜在介護士研修、介護の日などの対策も一緒に計画に載せ盛り上げてほしい。</li> <li>・体力のある法人だけが人集めができるというのでは、全体的なバランスがとれないと思う。行政、事業者、施設が話し合い、どうすれば底上げすることがができるかということ話し合えばいいと思う。施設はこれからも必要になってくるが、新規開設事業所でも、人材を補充しながら利用者を増やしながらという状態。待機者だけを見て施設整備を行っていくのでは、事業者はついていくことができなくなる。慎重にすすめてほしい。</li> <li>・介護職のイメージアップのパンフレットを作って、各高校を回る取り組みをこれからしていく。高校によっては、先生が「福祉の現場はやめなさい」といっている現状もある。そのような中で、市が中心となって教育委員会に働きかけて仕組みを作り上げてほしい。</li> <li>・市独自で人員基準を緩和するなど、介護従業者が定着するような施策を出してほしい。</li> <li>・介護ボランティアをしたら減税するなど斬新な取り組みを始めたらいと思う。今の団塊の世代にはインセンティブの付与は重要。</li> <li>・介護職が会社を辞める原因は人間関係が多いが、ユニットが原因の一つであると思う。ユニットの場合は、同じスペースに少ない職員数となるため、人間関係が強くなってしまふ。実際に、シフトを組んだ後、職員が一番気にするのはどの職員と一緒にいるのかということ。</li> <li>・施設を増やしていくことが悪い循環に繋がっていくということであったが、既存の施設に不足している機能を補っていくという意味で施設を増やしていくということはマイナスではないと思う。地域ごとの特性があるという意味では、無駄な施設を建てない、効率化・合理化していくことも地域包括ケアを進めていく上で大事なのではないかな。</li> <li>・サ高住などの高齢者向けの多様な住まいも増えている。特養の待機者もそちらに流れていっている状況もあると思う。</li> </ul>
⑥地域で支える仕組みづくりなど	58件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2層生活支援コーディネーターの課題は、3層の構築と捉えている。3層は現場であり2層とのつながりが上手にできる仕組みや配慮が必要。縦割りではなく横のつながりが重要である。</li> <li>・ちょっとした支え合いサポーターを養成し登録されたが、その後のつながりを閉ざさないよう連携必要。</li> <li>・町内会の行事等に高齢者がだんだん参加できなくなっていき、加入を辞退していく状況がある。</li> <li>・市民後見人養成講座もやっているが、数もそう多くない。200人くらいいて、50人が市民後見人として活動している。</li> <li>・地域交流サロンで、健康になるような企画をしていくもの良い。</li> <li>・家に閉じこもっている人を出てくるようにすることが課題である。</li> <li>・男性の参加が少ないことが課題である。</li> <li>・サロンに参加し頑張っている高齢者もいる。ふらつきがなくなったなどの声も聞いている。</li> <li>・ボランティア活動に対して負担感を減らすようにしなければボランティアが増えない。</li> <li>・高校生をお茶だしや配膳などのアルバイトで入れ、将来の介護の担い手としてのきっかけをつくっている。</li> <li>・地域ケア会議に呼んで頂きたい。事例に対して適切なコメントができるよう研修を積んでいる。</li> <li>・個別事例に対し、興味チェックリスト等活用し作業（趣味など）を通して元気になれるよう支援ができる。</li> </ul>
⑦認知症施策	15件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーターをさらに育てる人材育成が必要。・理解度や活動度に応じたランクづけをすると学ぶ気になる人もいる。</li> <li>・認知症になってから生活する場所の選択肢を広めることと、その周知を一緒に進めていくことが必要である。</li> <li>・小学生（の頃）から認知症のある方と関わりを持つことにより、自然と見守りができるようになる。</li> <li>・認知症サポーター養成講座受講後、サポーターとして何かしなければと積極的な人がいるが、養成講座を受けただけで何かできるとは思えない。スキルアップの講座を行って欲しい。</li> </ul>
⑧介護保険制度の動向など	14件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の人材不足、質の低下が心配である。</li> <li>・環境改善の介護ロボ導入補助金、報酬のアップが必要である。</li> <li>・認知症も多様であり、従事者は経験が必要となる。</li> <li>・今後の改正の動向について。リーダー的役割の人に手厚くするより、若い職員の意欲や離職防止につながるような制度改正が必要。</li> <li>・介護保険料について、年金は上がらないのに保険料は上がるので切実な問題になっている。第7期では相当力を入れて具体的に数字を示して、ちょっとした支え合いを増やしていけば、どのくらい保険料が減らせるのか、理解されやすい工夫をするべき。ただし、ちょっとした支え合い推進員からすれば、保険料削減のために利用されていると思われるため、慎重な表現をすべき。</li> </ul>
⑨高齢者福祉他などその他	11件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステムの柱の中に、事業所支援をぜひ入れて欲しい。</li> <li>・2号被保険者の難病の方など、障害と介護の制度と両方使えるが、介護優先になっていったときのサービスなどうまく連動させていけたら良い。</li> <li>・ろう者が老いて行ったときにどこの施設に入れるか。耳が聞こえないことは言葉でのコミュニケーションが取れないので、手話を使える人が増えていくと良い。</li> </ul>
合計	257件	